

SAKだより

神奈川県スキー連盟
横浜市神奈川区台町16-1
ソレイユ台町 407号室
電話 045 (311) 8907
発行者: 清水 清則
編集: 門 間 誠

SAKだより 20号 突破を祝う

県連参与 笹貫敏男

SAKだより
創刊号
昭和52年度 評議委員会終る

予算行事規約改訂
万場一致で承認
事務所取得も可決

待望のSAK事務所設置
去る九月十三日
開所式挙行

SAKだより創刊号S52.10.4

執行を顧みて

理事長 清水 清則



理事長に就任して六年が過ぎました。六年間は長い年月ですが、過ぎてしまえば、昨今のように思っているのが実感です。私は理事長就任に当って、一つの大きな希望を持っておりました。それは県連盟組織の和と仲間意識の向上でした。なぜこのようなことを希望しなければならなかったかと申しますと、それは一つに、スポーツ団体は他の会社組織、社会各種団体と異なり、社会的地位や生活環境の異なる者がスポーツにより結ばれていると云うことです。命令や規則一辺倒で活動できるものではない。又活動の目的が給料を得るためのものでなく、ボランティア精神によるもの差が当然でできていくと思えます。

近年のように連盟組織が大きくなる、その運営に当っては近代的な運営が要求されることも当然のことです。近年組織運営の近代化が進むにつれて、規則を基とした

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

今後ともSAKだよりが県連と共に発展、成長する事を念じつつ、お祝いの言葉といたします。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

県連と会員のコミュニケーションを基本に

発行第一号の時の想い出を語れと依頼を受け、いざペンを持ってみると、十年も昔に記憶も蘇らずさびたことやら……。

子供の頃から学級新聞は苦手中の苦手、それが皮肉にも、第一号の担当は、小生にとって至難の技で、第一号故にフォーマットもなく、何を記事にしたら効を奏すのか見当もつかず、原稿を依頼しても集まりは悪く、写真の準備もなく、中身の希薄なものになった気がする。幸い総務部長が印刷会社の社長(細井健吾)さんで、ご指

導の結果、小生の努力というより総力戦で発行に漕ぎつけたのが実感。

第一号を発刊し県連マークが欲しくなり、行事の記録の取り方も県連だより用の工夫が要ることが解り、第一号のお陰で仕事が増えましたが、結果県連マーク制定も短期間で達成し、多くの関係者に育てていただきホッとさせられた。このたよりも今後永く発行出来ることを祈念する次第です。

私の六年間の執行の中で、これと云って皆さんに喜んでいただけるとは、私自身も喜んでいた。私を少しも理解していただき、協力を得て大過なく任務を終ることができました。これは、一編に皆さん方のご協力の賜と改めて心から感謝申し上げます。ごさいます。

笹貫理事長体制下で、総務担当理事を仰せつかり、理事長方針は「会員とのコミュニケーション向上」が強く打ち出され、鶴屋町に事務所を借り、会員と随時交流が出来る事を第一にスタートし、担当から少しでも会員との交流を深くするため、市協、クラブのコード化での管理や、市協役員、有資格

者の名簿作り、そして第一号の県連だよりも会員全員に伝わるよう画策をしました。

近年のように連盟組織が大きくなる、その運営に当っては近代的な運営が要求されることも当然のことです。近年組織運営の近代化が進むにつれて、規則を基とした

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

SAKだよりがその重要な一部として、上部団体、加盟団体、所属団体、会員を結び役割を果たす機能を果たしています。その機能を十分に果たすには、内容の充実とタイムリーな伝達が肝要な事は申す迄ありません。そして、その為に創意工夫する事により、人を育て視野を広げ、先見性と計画性を養い、県連の円満な発展につなげていくと思えます。

副会長 山崎 勉

神奈川スキー連盟 創立五〇周年

昨年十一月、準備委員会発足記念事業の基本計画をたて、県連の組織をあげてとりくむこととした。本年一月、第一回推進会議を開催。準備委員会提案の原案を了承した。

これを受けて、近く実行委員会を開催し、具体的計画の策定および実行にあたることになっている。



第4回身体障害者 冬期オリンピック(インスブルック)

●松浦SAJ副会長 日本チーム団長として参加



17. 1. — 24. 1. 1988

皆さんは、「チロル」という名をお聞きになったことがありますか。映画のサウンド・オブ・ミュージックの舞台となったオーストリアの名前です。今だに古い町並みを残し、歴史が多くの足跡を残した地方です。そのオーストリアのインスブルックで、一九八八年一月十七日から二十四日まで第四回身体障害者冬期オリンピックが開催されました。今回から我々のチニアスキー部門が「LW・一〇」(注)として新設され、オリンピック参加という長年の夢がやっとかないました。

日本からは、SAJの松浦副会長を団長とした総勢三十四名が現地入りしました。(選手十三名、役員九名、サポーター応援団十二名)世界からは、二十四カ国七百名が参加しました。

オーストリアも日本と同様雪不足で、平地には雪が少なく練習場を確保する為に毎日各地を走り回りました。それでもさすがはチロル、バスで三十分も走ると三千mクラスの山のビステに到着でき、良質の雪での調整ができました。

ここで正式選手登録時に行われた「メデイカル・クラシフィケーション」というものを紹介しましょう。聞き慣れない言葉だと思いますが、障害者のスポーツ大会では必ず行われるものです。これは簡単にいうと、体の機能チェックのことで、本当に動かない足(又は手)かどうか、又その程度を調査記録することです。

開会式の前日、インスブルック市長からの招待状が届き「前夜祭」に出かけることにしました。会場の入口で軍隊のマーチング



本身体障害者スキー連盟、長野オリンピック(仮称)等のパッチが持ち込まれましたが、インスブルックが受けた「SAJ」のものが一番の人気でした。

一月十八日、いよいよ開会式の当日です。各国の選手団が二手に別れエントランスゲートに集合しました。会場は、アイスアリーナ(スケート場)で一九六四年の冬期オリンピックの行われた場所です。つい先日まで、あの黒岩がこのリンクで調整を行っていたそうです。アルファベット順に入場行進が開始されました。日本はイタリアの次でした。イタリアといえは、今回ユニフォームの素晴らしさで各国の注目を浴びました。それは濃紺の上下スーツに、同色のコートです。後からわかったことですが、これはナショナルチームのユニフォームでカルガリー大会のために作られたものを一足先に使用したわけです。皆さんがテレビの開会式で御覧になったまさしくそのものであります。

我々日本チームも、「白地に赤く……」とスッキリしたデザインであると自負していましたが、イタ

リアチームのものにはとてもかきません。聖火が点火され、式も最高潮。フロアでは地元若者達によるフォークダンスや鬼踊り(秋田の名なほげみ)など、衣装などのアトラクションで、我々を歓迎してくれました。又観客のマネーが非常に多く、拍手のタイミング等反応が良いため挨拶に立った人もいつもより気分良くできたようで、さすがに数回のオリンピックを経験している市民であると感じました。

昨日のお祭り気分を一新して、いよいよ競技が始まりました。そして四、七、十二位と好位置に付け、二本目に期待がかかったが、そのとき主催者から思いがけない発表が行われました。時間の都合で、LW・一〇の二本目を中止するというのです。不慣れたドイツ語のアナウンスで確認するのに手間取り、少し遅れたが、二本目を実施するよう抗議を申し込みました。そして二日後に二本目が行われることに決定しました。しかし、オフィシャル側はただ二本目を行えば抗議も納得するだろうと思われような極端に短いコースで行われました。これではタイムを縮めることなど不可能です。最初から一本勝負であれば、レースに臨む心構えも違ったであろうし、メダルも可能だったかもしれない、などと愚痴がでました。

初出場ということもあり、練習不足や調整不良など多くの課題反省点を残しました。

次回はもっと早くから準備を開始し万全の体制で臨み、一つでも多くのメダルを獲得したいと願います。近い将来日本でもオリンピックが開催されると思います。その時はまた多くの皆さんにお世話になると思っております。

最後に、松浦副会長をはじめとしたSAJのコーチングスタッフの

松浦益司郎団長の言葉

健康者が、身障者のスキーを考へるとき、どうしてもハビリティシヨンの、またはレクリエーションとして見ることが多いと思いますが、実際に大会を見ると、非常に激しいたか行なわれていて、どの選手も勝負に対しては私たちがよりうまく滑る選手もたくさんいます。とくに、チニアスキーは常に一本のスキー板に乗り続けているわけで、二本のスキーに比べ余分な動作が少なく、合理的な動きだと思えます。

こうした競技熱をスキー界全体が育てていけるよう、SAJでもはたらきかけていきたいと思います。



松浦益司郎氏

丸山 靖・菊地 進

著者紹介

両者ともチニアスキー協会に所属している一方、私達と同じ県連の仲間(小田原スキー協会・トライアル)であります。

丸山君(28)は高二のとき、交通事故に遭い不自由な身体になってしまいました。しかし、元来スポーツマンの彼は挫折することなく、冬のチニアスキーは勿論、夏はバスケ、陸上と頑張っています。

86年の障害者世界大会(ロンドン)では車椅子スラロームのゴールドメダリストでもあります。

また菊地君(39)は、健康者が構成している、チニアスキー協会の運営委員で、今大会の日本チーム

前回突然ではありますが、この読者の皆様に関心掛けました。ゲレンデ内の喫煙に對して、ひとシーズンを終え、多くの方の意見と協力を得ましたので、ここに改めて、その報告と今後の協力をお願いしたいと思います。

さて、前回の概略ですが、私達組織スキーヤーは、他のスキーヤーの範たるべきであるよう、努力も必要であることを述べましたが、この日本の豊かな自然を相手にするスポーツ、スキーは自然と共存体でなければならぬわけで、当然これを大切に、私達は美しい姿を保つよう努める義務があるので

また、スキー場ではスキーヤーの放置したゴミの処理に頭を痛めていること。そして、「五竜とおみスキー場」ではジュニアのボランティアでゲレンデを清掃していることも写真入りで紹介しました。

この前回のこの記事をご覧になって、皆さんはいかが感じましたでしょうか。

広報委員会のスタッフは、記事だけではなく、理事会の確認を得て、今シーズンは「ポイ捨て追放元年」と言うことで、SAKの各行事を通してキャンペーンを計ることになりました。

予定では、普及部の雪上での全ての行事に実施を考えていたのですが、いくつかの問題もあり、実際には一部の行事だけになってしまいました。

まず、十二月初の行事 指導員雪上研修会Aの会場(車山)で前回の「SAKだより」の配布とあわせて門前理事よりこの問題の提唱のアップルがあり、研修会に参加の約60名の有資格者の反響を得ました。

この席上、車山の山崎常務(信州総合開発)から「私達が取上げべき問題を良く提唱していただ

の役員として参加しました。一方の彼の所属する県連参加のクラブでは、今期から理事長として活躍する予定です。障害者(現在は丸山君だけ)を二名でも受け入れて、一般スキーとの接点を見い出そうとしていきます。今後の彼らの活躍

に期待したいものです。(広報委員記)

(注) LWクラスについて LW(Locomotion of winter)とは「冬期の運動」という意味の言葉である。

きました。」とのコメントや、他の参加者からも「ポイ捨ては、良くないと思いつつ習得で、これからは気をつけますよ。」といった声を多く聞きました。

さらに、一月の準備養成コースBの会場(五竜とおみ)では、「ポケット吸殻入れ」を参加の喫煙者に配布して、愛煙家が気兼ねなくゲレンデで喫煙出来るように、配慮したキャンペーンを組むことが

からだと云えます。この「吸殻入れ」、参加者になかなか好評で、なかには「小銭入れにいい」なんて別の使い方で喜んでる某役員さんもいたとか。(日本たばこさんには内緒です。)

さて実際の成果はというと、これは行事の後に中西氏に聞いた話ですが「神奈川のスキーヤーはマネーがいい」とパトロールを通じて報告が何件あったそうです。勿論、お世辞でしょうが、事実この時の行事に関して「ポイ捨て」は少なかったと思います。

しかし、時うつってキャンペーンを打たなかった、三月始めの準備養成会の会場(車山)では、役員を含めた多くの県連関係者が、平然と「ポイ捨て」をしている姿を見ました。実はこの時の写真があるのだが、煙がボケてNG)

この二つの行事の対比は、いくつかの課題を私達に示しているように思えます。

そのひとつは、やはりこの種の運動は、じっくりあせらず長い時間を掛けてやっていかなければならないということ。

私達もすこしづつの前進があれば、よいと言うことでスタートした運動のわけで、マツ「ポイ捨て追放元年」の初年度としては、まあまあ、成果があったのではないかと思っています。

最後に「日本たばこ」をはじめ、この運動に協力いただきました関係各位にたいし、深く感謝いたします。お礼申しあげます。今後ともよろしく御協力をお願いします。

広報委員会ではこの提唱に対して、みなさまのご意見をお待ちしています。

連絡先 〒221 横浜市神奈川区台町16-1 ソレイユ台町407号

神奈川県スキー連盟 広報委員会

続・やめようゲレンデ内の たばこのポイ捨て

予算の無いなかで、これが実施できたのは、地元スキー場の中西課長(信州塩嶺高原開発)を始めとしたスタッフの協力。また私達のキャンペーンが、単に禁煙運動でなく、自然保護を含めた愛煙運動であることに理解をしてくださった「日本たばこ」営業本部恒崎氏と関係者の方々の協力(ポケット吸殻入れ)の提供があった

LWクラスには個々の障害度により、LW1-10に分けられる。今回チニアスキーが参加したのはそのうちLW10という両肢機能不良又は脊髄損傷の人々のクラスであり、通常はほとんどの人々は車椅子の利用者である。

この二つの行事の対比は、いくつかの課題を私達に示しているように思えます。

そのひとつは、やはりこの種の運動は、じっくりあせらず長い時間を掛けてやっていかなければならないということ。

私達もすこしづつの前進があれば、よいと言うことでスタートした運動のわけで、マツ「ポイ捨て追放元年」の初年度としては、まあまあ、成果があったのではないかと思っています。

最後に「日本たばこ」をはじめ、この運動に協力いただきました関係各位にたいし、深く感謝いたします。お礼申しあげます。今後ともよろしく御協力をお願いします。

広報委員会ではこの提唱に対して、みなさまのご意見をお待ちしています。

連絡先 〒221 横浜市神奈川区台町16-1 ソレイユ台町407号

神奈川県スキー連盟 広報委員会



北風に耐えて鍛えて明日に飛べ〜 "岩手あしろう国体"

第43回国民体育大会スキー競技会 '88. 2/23~26

各部

強化部

だより

今年も期待した選手は皆「ズッコケ」でした。最後迄調子が戻らず、予定した得点の半分にも満たない国体でした。

レースには常に絶対はないと思っておりますが今年は見事に外れました。この反省を来年に生かしたいと思っております。

反省の一年

強化部長

佐々木 峻

冬のカルガリーオリンピック等スキーシーズンにとっては忙しい一年でした。県の選手も毎年確実にレベルアップしておりますが、レースに於いて問題は沢山あり反省の一年でした。

各種の大会に於ても少年組選手のレベル、選手数は数年前とは大変な変わり様です。

この沢山に増えた若い人達の競技指向を育ててゆくのは、我々にとり大きな任務と思っております。又今年の安比国体予想の外れた年はありませんでした。スキーは個人種目であるから一人が悪い成績でもどこかで取り戻せると思っております。しかし



〜北風に耐えて鍛えて明日に飛べ〜 第43回国民体育大会冬季大会 スキー競技会 '88.2/23~26安比町にて "岩手あしろう国体"

この競技を取り入れてトレーニングをしているのは役に立つからだと思います。日本選手でも是非試してみたいと思っております。新しいトレーニングの方法にも御期待下さい。

選手育成を計れる 組織を強化する

強化理事 山田 力

十年後の国体開催がささやかれる今日この頃である。国体は各競技団体の主たる目標であるが、残念ながら、毎年ある程度の成績を上げながら、ここ数年今一步の感が否めない。それは、「これが神奈川県である」というインパクトに欠けるところにあるようだ。今日では、雪国の選手であつてもシーズン中の合宿・遠征等の経費は莫大なものになる。雪国でも雪なし県と同じように費用がかかる時代である。このような状況でありながら我々の潜在意識にマイナーなスポーツという観念があるのではないだろうか。メジャーなスポーツという意識と意欲を持ちたいものである。

当然、選手の育成・強化にたずさわる指導者を養成することも大切なことである。現代スキー競技は近代スキー競技と違い、個人競技としての色彩は少ない。選手を育成する組織と競技会において選手をバックアップする組織が連携して、選手が大会において十分に

力を発揮できる時代である。指導者は技術・マテリアル、体力・筋力、精神・医療等の各分野を、専門的・総合的に習得しなければならぬであろう。そして、この指導者養成の場を作ることが重要な課題となる。

現在、オフトレにおいて選手個々のカルテを作成している。一人一人の個性に対応した指導体制の第一歩である。前述のように選手強化は、スキー競技に対する高い意識と、各方面の絶大な理解・協力を得られる体制作りから始まり、指導者の養成により実現できるものであり、長期的な展望に立った選手強化も可能となるのである。

昨年、九州佐賀県にもスキー場が造られるという話を聞いた。「雪なし県」と言つて手を拱ぐとまではない。十年後の国体においても「雪なし県」でも国体が開催できるという心意気を示してみたいものである。

年間を振り返って!

総務部 大山重彦

六十二シーズンの雪上行事は、会員の皆様のご協力により、全て無事終了し、各部はその総括に忙しい日々を送っています。特に、このシーズンは、広報委員会と傷害対策委員会の方々大いに活動して頂き、「SAKだより」も三回の発行をみることで、新しい「日赤救急員」が誕生しました。(合格六名) 予定している「コンピュータ購入」については、専門家の方々のご意見を頂きながら、近いうちに購入の見通しがたちました。意見聴取の段階で、ファクシミリ購入の必要性を強く感じましたので、あわせて具体化する方向を進めていくと考えております。

大山 重彦

神奈川県高等学校体育連盟 スキー専門部の紹介

高体連

スキーを始める者が多く、スキーのイロハから始まる者も少なくない。したがって、全国大会にはまだまだ力不足の感があるものの、一月の県高校スキー大会兼関東・全国大会予選で勝ち、関東高校スキー大会や全国高等学校スキー大会に神奈川県代表になった選手が、郷土の名誉を担って一生懸命に頑張る姿は清々しいものである。

正式には、神奈川県高等学校体育連盟スキー専門部という。神奈川県全域の高校生を掌握する組織として、昭和四十一年創設六十二年現在会員数三五〇余人、SAJ登録会員一四〇余人、加盟校数五五校となっている。この数年、組織の拡大と指導者の育成、選手の強化に力を入れている。会員数は前述の通りであるが、指導者は現在SAJ公認セッター二名、正準指導員五名(他県登録含む)、各種有資格者若干名が居り、他の指導者もルールの勉強や指導に熱心な者が多い。選手強化において、本県は高校から競技

六十三年度 事業計画
七月下旬 強化普及合宿(立山)
一月上旬 県高校スキー大会兼関東・全国予選(津南)
下旬 関東大会強化合宿(岩倉)
下旬 関東大会(岩倉)
二月上旬 全国大会強化合宿(中甸)
中旬 全国大会(大鰐)

ノルディック



南関東ノルディック競技会は神奈川県スキー連盟が主管で妙高池の平スキー場の白樺クロスカントリーコースにて行いました。地元池の平スキークラブの協力により、コース・計時共良好で行われました。神奈川県は少年少女で一位、二位、成年女子Aで一位、成年男子Cで一位Bで二位と入賞しました。また団体選考会も兼ていました。次の選手が選ばれました。
少年女子 大谷直子、大場 恵
成年女子A 清田美由紀
成年男子A 川口茂樹、木村康彦
" B " 松尾泰行、米山克治
" C " 乳井 学、岩村 茂
成年男子A複合 村井延彦
" B " 西館健吾
ノルディック競技強化合宿兼新人講習会会場を十四年連続いた北鞍山スキー場から妙高池の平スキー場に移動して行いました。雪不足で

三月下旬 新人大会(黒姫)
以上の事業の間に、各加盟校は学校単位での合宿、県スキー連盟主催の各種大会・行事に参加している。

高体連合宿S63・5



満足なコースは設定出来ませんが、地元の協力もあり、練習には差しつかえなく行われました。名コーチと云われる横山久雄氏の指導、講義等もあり近來にない充実した講習会となり、今後このような有意義な合宿を行っていきたいと思っております。
続いて一月二日、三日の二日間に神奈川県スキー選手権のクロスカントリー大会を行いました。参加人員、コース設定の関係で正月合宿のすぐ後に行い、十七名の参加を得、この日程を続けていく予定であります。



全国ベテランスキー

に出場して

田中 正誼

二月二十二日第十二回全国ベテランスキー大会が岩手県安比高原スキー場に於いて開催された。当日は晴天で無風という絶好のスキー日和に恵まれ、アルペンとノルデックの二種目が行われた。コースは団体コースの中間より全長八〇五メートル平均傾度二十八度二十三分旗門数二十七でスピードの出せる大回転コースで二〇六名の選手により行われた。

当神奈川県より四名出場、各クラス共雪国の選手が強く特に北海道、長野、青森、新潟は予選会で選ばれただけあって上位入賞者が多い中で、当県では女子の部五十五才代で丸山選手四位、男子六十五才代で私が三位入賞と健闘した。また大会後の懇親会も各県の方々と楽しい一時を過ごし来年の再会を誓い別れました。

神奈川県より四名出場、各クラス共雪国の選手が強く特に北海道、長野、青森、新潟は予選会で選ばれただけあって上位入賞者が多い中で、当県では女子の部五十五才代で丸山選手四位、男子六十五才代で私が三位入賞と健闘した。また大会後の懇親会も各県の方々と楽しい一時を過ごし来年の再会を誓い別れました。



準指検定を受けて

穴田 由香

今年、天候、雪質、斜面すべて良い条件で受けさせていただきました。受験者が二〇七人という多数の中、私は小鳥のように(？)ふるえながら車山の斜面を滑りました。適度な緊張感とサポートに来てくれた仲間がベストコンディションに近いものを作ってくれました。合格したとはいえ、喜んでばかりはいられません。技術力も、指導力もまだまだなので準指として恥ずかしいながらも力をつけたいと思います。検定員の方々、協会の方々、クラブの方々、サポートに来てくれた方々、大変ありがとうございました。穴田由香は、歌って踊れる指導員めざして、一生スキーを続けて仲間をふやしたいと思っております。おわり



クラウンブライズ テクニカルブライズ 合格者

期日 昭和63年1月9日(土)～1月10日(日)
場所 野辺山スキー場

- 昭和六三年度
クラウン、テクニカル合格者
クラウン合格 星 均 藤沢
テクニカル合格 萩原 敏秀 鎌倉 工藤 雄二 藤沢 青山 英考 藤沢 清水 寧 座間 水谷 智之 横濱 神田 美香 横濱

準指導員検定会

期日 昭和63年3月4日～3月6日
会場 車山高原スキー場

受検者 207名 合格者 104名

- 上野 暁 高橋郁代 西堀英城 石井有生 (川崎) 菊一伊助 安藤 努 佐藤和枝 加藤若雄 小熊金子 高橋明雄 佐藤篤実 桑原 進 渡辺英一 井上亜湖 河野重男 石井 剛 広沢達也 藤間浩之 須藤 寛 岡野恵子 大野 浩 佐藤寿夫 吉岡 潤 (小田原) 七尾 悟 入山圭司 田中文士 高橋和浩 (横須賀) 倉茂伸治 渡辺里美 (相模原) 小林茂夫 山口正人 渡辺真理子 麓真佐志 山下真理 (藤沢) 吉田英雄 田中美礼 木瀬祥一朗 竹内宏之 井口 真 渡部 修 (平塚) 土田 澄 藤原珠美 (鎌倉) 磯部 優 萩原敏秀 山崎みどり 小池和弘 穴田由香 森 教子 若松ゆか (逗子) 松永貴之 大久保貴一郎 (座間) 本山光芳 (伊勢原) 遠藤利広 (厚木) 実松瑞美 小野寺優子 (津久井) 小池頼行 梅原 茂 大神田英次 山崎竜人

第1回神奈川県技術選手権大会開催 指導員研修会(Dコース)指導員受験強化講習会 及準指養成講習会Bコース

期日 昭和63年1月22日～1月24日
会場 遠見スキー場



雄大なビッグゲレンデ、五竜とおみスキー場で第一回の神奈川県技術選手権兼研修会Dと指導員受験強化と三項目において行われました。

地元スキー協会、観光協会、パトロール隊の一对となった協力で、第一回の選手権にしてふさわしい天候に恵まれ、コース雪質共に最高の物と思われました。



日頃の鍛練の結果を存分に発揮出来た人、又大会の雰囲気になれずに終わってしまった人達と、かなりの差があったように感じられた。しかし予想通り、ベテランが上位を占めたのはやはりという感じ、女子については、今期初出場の選手が上位を取られたのが目立った。今後も来期に向けて、オフシーズン

- 男子総合入賞
一位 川崎 謙一
二位 川崎 謙一
三位 堀 裕樹 横濱 謙一
四位 中田 嘉範 小田原 謙一
五位 川崎 謙一 川崎 謙一
六位 及川 謙一 横濱 謙一
七位 小林 謙一 横濱 謙一
八位 東海林 謙一 藤沢 謙一
九位 高木 謙一 藤沢 謙一
十位 川島 謙一 横濱 謙一
女子総合入賞
一位 相模原 謙一
二位 大橋 謙一 鎌倉 謙一
三位 渡辺 謙一 相模原 謙一
四位 田中 謙一 横濱 謙一
五位 田中 謙一 横濱 謙一
六位 鈴木 謙一 横濱 謙一
以上

県総体スキー大会 にあたって

強化理事 工藤 政蔵

第39回総体スキー大会も総合優勝の連覇を狙う相模原市を追う横浜川崎と言った展望を掲げましたが、今年は野辺山高原も80年振りの雪不足とあってノルコースについては思うようなコースも取れず、ショートコースと言う事で選手の皆様には大変迷惑をかけたと思います。又ノルコースのコースとは反面アルペンコースについては昨年野辺山ハイランドスキー場でもグレンドの拡張し全日本クラスのコースを使って大会が出来たと言う事については各選手共自分の力を十分に発揮出来たと思えます。このような展開の中で今年も得点争いの方は、やはり選手層の厚い相模原市が四連覇を達成し、この雪不足を盛り上げて、この大会の幕が閉たと思つ。

指導員34名合格

- 昭和六三年度 正指導員合格者
第一会場 北海道 朝里川
市川 博子 藤沢スキー協会
村山 政幸 横濱スキー協会
飯塚 明巳 川崎スキー協会
善家 英人 川崎スキー協会
中森 博文 津久井スキー協会
森田 徹 横濱スキー協会
岩永 東男 横濱スキー協会
神山 謙 横濱スキー協会
中沢 明子 横濱スキー協会
原 勇三 横濱スキー協会
吉山佳一郎 横濱スキー協会
第二会場 岩手 網張
小野 高根 川崎スキー協会
永田 陽子 相模原スキー協会
若松 徳彦 川崎スキー協会
第三会場 長野 車山
高橋 守 横濱スキー協会
永倉 實 伊勢原スキー協会
中田 嘉範 小田原スキー協会
村越 進 小田原スキー協会
杉山 隆司 厚木スキー協会
鈴木 正治 藤沢スキー協会
伊藤 昭彦 川崎スキー協会
佐藤美智夫 津久井スキー協会
佐藤 潔 横濱スキー協会
梅津 正明 横濱スキー協会
野本 貞夫 横濱スキー協会
伊藤 仁巳 平塚スキー協会
米谷 裕信 横濱スキー協会
井戸ゆりえ 横濱スキー協会
田村 真澄 横濱スキー協会
市川 實 川崎スキー協会
第四会場 兵庫 流葉
市川 房雄 小田原スキー協会
太田 顕 相模原スキー協会
篠崎 正義 相模原スキー協会
森 公一 相模原スキー協会

第6回関東スキー技術選手権大会

期日 昭和63年2月5日(金)から2月7日(日)
会場 車山高原スキー場
関東技術選手権大会に神奈川県代表一名入賞
四位 中田嘉範 小田原スキー
九位 押見唯継 川崎スキー
参加者50数名中

雪に魅せられた仲間たちの集い 横浜スキー協会創立40周年

昭和63年6月19日(日) 新横浜国際ホテル



横浜スキー協会
会長 本田 安男

横浜スキー協会は、昭和二十三年の六月に創立された横浜山岳協会を、母体として発足いたしました。横浜の街のそこ此処に、今次大戦の傷跡も未だなまなましく残っていた頃のことです。

爾来四十年、本年六月には創立四十周年記念式典と祝賀会を、新横浜国際ホテルにおいて開催するまでにいたしました。

式典と祝賀会には、県下のスキー団体からたくさんの方々が、お祝いに来て下さいました。そして全国からも多くのスキー関係者が、このために遠路横浜まで足を運んで下さいました。

横浜スキー協会の母体である山岳協会の方々、他の種目別団体の代表者など、横浜市体育協会の関係者、あるいは横浜市教育委員会の方も、会場でお会いすることができました。

横浜スキー協会長として、思いがけなくたくさんの方々をお迎えし、そのうえ、丁寧なお祝いの辞をいただいたわけでありすが、これも、横浜スキー協会をこま

横浜スキー史の集大成

横浜のスキー

40年の軌跡

横浜スキー協会創立四十周年記念事業実行委員長

石毛 良夫

およそ一つの歴史に迫ろうとするとき、何よりも大切なことは、どのような視点でその歴史を見るか、ということである。それがいわゆる史眼と云うものであろう。歴史と年代史との決定的な違いは、一つの事実、現象に対してこの史眼を持つか、そうでないかという、まさにその一点にあるとい

て育んで来られた、協会の諸先輩のご功績によるものと、改めて感激してまいりました。お陰様で、皆様方のご厚情に支えられて、創立四十周年記念式典と祝賀会を盛大に挙行することができました。

現在スキー協会の会長にある身としては、県下のみならず、全国の多くの人々に見守られながら今日を迎えた協会の伝統の重さと、将来に向けてさらに大きな飛躍を期待される責任を、痛感する次第であります。

当日は、お越しいただいた方々に充分なご挨拶もできず、失礼もあつたかと思ひます。紙面をお借りしてお詫び申し上げますとともに、横浜スキー協会は、今後もスキーの発展普及にこれまで以上の力を注ぐ所存でありますので、よろしくお力添えをお願いし、皆様への御礼のご挨拶とさせていただきます。



祝 茅ヶ崎スキー協会創立36周年

昭和六十三年六月十二日

記念式典を終了して

会長 石田 久夫



記念式典に出席した茅ヶ崎スキー協会関係者。

「地域社会において、スキーを通じてスポーツを普及し、スキー人口の底辺を広げ、地域社会に浸透するスポーツの振興を、昔からそして将来にわたってやっております」と石田会長があいさつする。茅ヶ崎のエピックス・アカデミー三階。

六月の梅雨空に小雨舞う茅ヶ崎駅。なぜか爽やかな春雨である。そんな日曜日の午後、創立三十六周年記念パーティーが催された。

皇中実行委員長の開会のあいさつに続き黒川県連名誉会長・園山指導員会副会長として小川県議員などの各方面の方々も創立三十六周年を祝う。

第一部「このような祝賀会、大会などの乾杯、鏡割りの音頭とをいつもやる訳で、これを私は大変光栄に存じております。」と三塚顧問。そして山崎・和久井県連副会長とともに景気の良い掛声で鏡割りが行われ祝宴は和やかに進む。(取材 中野)

先づは無事盛大に挙行できましたことは、御来賓いただきました皆様と御後援いただきました皆様のお陰げと衷心より感謝し御礼申し上げます。

昭和六十三年六月十二日、当協会にとりまして、一つの節目として色々な意味において過去を振り返り永かった歴史を会員一同で喜び合い、そして反省した日でもありました。

又この日を境目として新しい気持ちで将来に向かい決意と情熱の火を更に燃え上がらせた日でもありました。

当日は、雨天でもあり又六月はジュニアライトの月、しかも十二日は大安吉日、もう一つ考えれば、月山、鳥海、乗鞍等の春スキーの最盛期でもありました。

御招待をお願い申し上げた方々のなかには、お祝いごと等と重なり、このような日取りではどちらか片方は出席できなくなるとのお叱りをうけてまして恐縮した次第でございます。

又実行委員よりのお詫びですが、御招待状を送るに際して洩れた方がありまして又住所の転居先不明等でお届けできなかったりしまして大変失礼申し上げます。

第一部式典は、国會議員先生方よりのレタックス、県連諸先輩、各協会の代表の方々、地元県会、市会議員の諸先生並びに市及び教育委員会の方々から御丁寧なる御

祝辞を浜山頂戴し、会員一同肝に銘じ心より感謝申し上げる次第でございます。

第二部は、鏡割り、乾杯、そして茅ヶ崎の無形文化財の円蔵ばやし、ひよっとこ踊り、更にフラダンスとハワイアンバンドでゆっくり夕刻まで懇親パーティーを進めさせて頂きました。

御来賓の方々九八名会員と合わせまして二〇〇名でございます。さて当協会は、会員のための会であり会員の住みよしの会の運営を心掛けると共に当協会のモットーであります地域社会にスキーという手段でスポーツを浸透し、地域住民の皆様と融和し、スキースポーツの楽しみを通じて人間関係のふれ合いを育ててゆくこれには地域のオビニオンリーターの皆様や、市当局、市教育委員会と常に密着した事業計画の実施をするという大きな目的で遂行しております。

顧みますと、昭和二十一年一月に市内のグループのスキー行が第一回として記録に残っており、昭和二十四年には会が結成され当時から当分の間はスキーと登山が一緒に行われておりました。これは全国的な風潮でもありました。ですから会が結成されてから四十周年という事にもなります。

協会の創立は昭和二十八年五月九日に市内のスキーと登山の愛好者の幾つかの会を組織化して、茅ヶ崎スキー山岳協会を結成し発足をしました。同年五月二十三日に茅ヶ崎市体育協会に種目団体として加盟公認され、又同年五月二十四日に神奈川県スキー山岳連盟に加盟申込み同年六月一日に承認、公認団体としての活動に踏み出しました。

その後、神奈川県スキー山岳連盟は第十回神奈川県団体開催に臨み発展的解消しスキーと山岳が分離するの期に、当茅ヶ崎スキー山岳協会も、スキーと山岳に組織分けをいたしました。

現在に至るまで、スキー普及のため、市民スキースクールは第三十六回(年)を数え、スキー競技会も第三十五回(年)を市民選手権大会として開催してまいりました。

その間、何回か国体選手を送り、昭和四十三年三月五日には県総合体育大会(都市対抗スキー競技会)に茅ヶ崎市を総合優勝させることができました。

昭和二十年代、昭和三十年代は、茅ヶ崎市にはスキーヤーは、本当に少なく、スキー用具を肩に駅のプラトホームに立つと珍しがられたものでした。しかし市内にはスキーを滑ってみたいという希望者は多く、日帰りで簡便にと、富士山の御殿場にバスを仕立てて募集したところ全員貸しスキー希望で即日定員満員ということもありました。前述したように、それから地域社会にスキーを振興し、健康と体育の仲間づくりをしてまいりました。

今後共県内の皆様、小さな協会ではありますが、温かい目で御指導を戴き度く存じ上げ御礼の言葉にかえさせて頂きます。



の心の中で、捉えどころが無くなっていくのである。奇妙なほどに希薄になっていくのである。

私は、私と一緒に編集に携わることとなった仲間と問いかけた。答えは明快だった。「どんな時代でも、スキーをやってきたのは市民でしよう。つまりスキーも社会生活の一部でしよう」

それまで入っていた肩の力が抜けた。急に見えてきたのである。戦後社会史の側面から、横浜のスキーを捉えてみよう。それはむしろ、スキーを通して語る世相史であるのかも知れない。

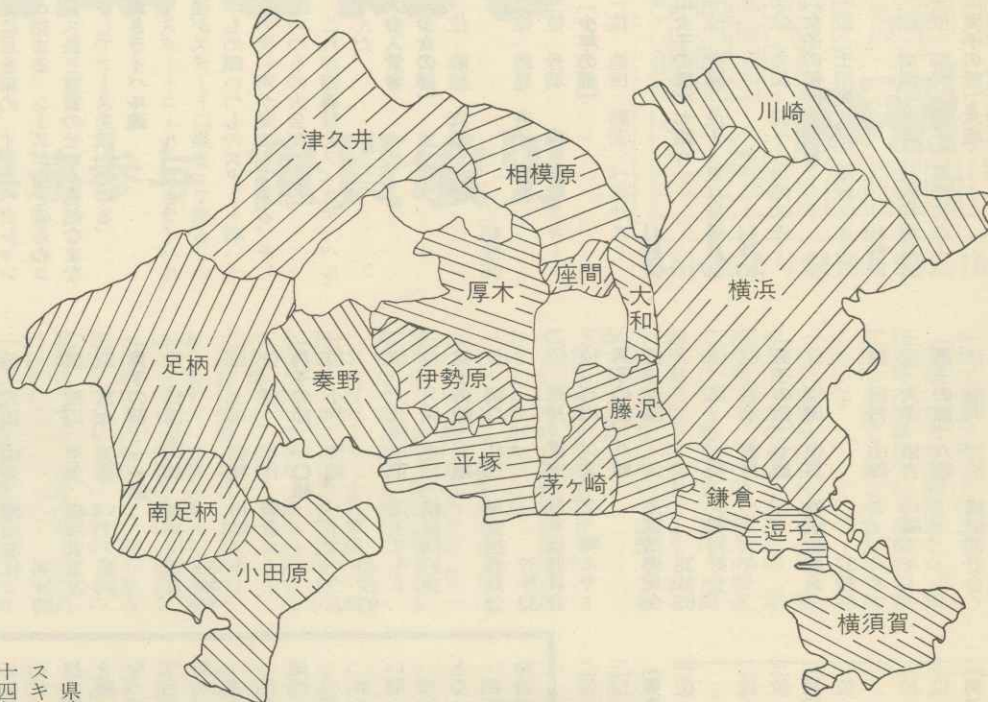
一年半にわたる長い作業であったが、私にとつては楽しい仕事であったといつてよい。資料などの収集整理、原稿の執筆。それらはもちろん、大変な苦勞ではあった。しかし私は、よい編集仲間に出会った。

私たちの、ささやかな努力の集みである記念誌が、此処にある。「横浜のスキー」と名付けられたこの記念誌の出来栄に、私たちは決して満足しているわけではない。むしろいろいろと不満は残る。しかし、いつの日か、私たちが遺したこの仕事の後を受けて、横浜スキー協会の歴史を、私たちが違ふ史眼によって、書き記す人が現れることを、期待している。



シールハイル

版 わるか 協会



このコーナーは、各協会の行事や活動を紹介するために企画されています。多くの協会からの投稿を希望します。
広報委員会

藤沢 スキー協会 30周年を迎えて

県連会員の皆さん今日は。藤沢スキー協会です。当協会は昭和三十四年十二月に発足し、以来三十二年を迎えようとしています。

設立当時は山岳協会のスキー活動から独立し二団体一協会の体制で活動が開始されました。市民スキー教室、スキー映画会の基礎も築かれ今日の協会の主行事となっています。三十七年には県連への加盟が許可となり本格的な活動を行える体制が整えられました。翌年には市民スキー大会が始まり、これも今日まで続く行事の基礎となりました。その後も協会加盟団体の増加と共に、シーズンインを前にした映画会、年末年始を利用しての越年市民スキー教室、県総体選手選考会を兼ねた市民スキー大会が定着化し、参加者も年々増加しスキー愛好者普及の一助となっています。現在では小林俊輔会長のもとに十一団体四〇〇名の人達が当協会を組織しています。今日では当協会には正・準指導員が合計七十四名も在籍し、県のデモンストレーターも擁し、団体選手を送り出す等、規模・内容とも県内一流のスキー協会へと成長してきました。

今後には三大行事の内容充実を計りつつ、潜在的スキーヤーの発掘、同好会や企業内クラブの協会への加入促進が課題となっています。今後共よろしく御指導下さい。

秦野 スキー協会

“活気あふれる
若い理事会”

秦野市は、丹沢のふもとに位置し、富士山や湘南の海までも展望できる緑豊かな住み良い街です。この秦野市に協会が設立して今年で十四年目となり、協会に加盟している団体は、7団体、会員は約五百五十名と、設立当時に比べて、大幅にスキー仲間が増加しています。さらに、秦野市は、都市化が進み、人口も急増する現象にあり、協会としても今後加盟人員が増加するものと期待しています。当協会の現在のメンバーは、平均年齢が30才を下回る若い理事員で構成され、活気あふれる協会となっており、その活動も、若い人ならではの発想を大切に、行事づくりと運営を行なっています。

シーズンオフは、6月から行動を開始し、各クラブとの交流を深める事を目的に、クラブ対抗のスポーツ大会、テニス大会を行ないます。本格的な活動は、十月の映画会を皮切りに、初滑りスキー、正月スキー、三月スキー等を行ないます。中でもジュニアスキーは市選手権、子供の春休みに添って行う行事ですが、年々参加人員が増え、毎年、募集人員を増やしているにもかかわらず、募集広告を出す前には、もうキャンセル待ちになっている状態で大変人気がある行事となっています。

我々は、このように人気ある行事を数多くできるように、今までの経験を生かし、協会が発展するよう頑張っています。今後共、各協会とよく交流し、互いに発展できるように御協力よろしくお願い致します。なお、スキー行事日程は次の通りです。

- (1)初滑りスキー
日程 十二月九日～十二日
場所 志賀高原熊の湯スキー場
- (2)お正月スキー
日程 十二月九日～十二日
場所 志賀高原熊の湯スキー場
- (3)日帰りジュニア
日程 一月二十二日
場所 日本ランドスキー場
- (4)三月スキー
日程 三月十八日～二十二日
場所 北志賀高社山スキー場
- (5)春休みジュニアスキー
日程 三月三十日～四月三日
場所 志賀高原熊の湯スキー場



横須賀 スキー協会 戦後創立40周年を迎えて

横須賀スキー協会では、本年五月一日をもって戦後創立四十周年を迎えます。

戦前には、昭和十一年一月一日に横須賀スキー協会が設立され、軍港都市として全国から集まった海軍関係者の雪国出身のスキーヤーが多く、県下のスキー大会で大活躍しました。当時の新聞報道によると、軍港

地より、第五回冬季オリンピック札幌大会に向けて、代表選手を送り出すとスキー映画会や講習会などを開催し、第一回市民スキー競技会を、昭和十二年一月山中湖畔で実施するなど歴史がある協会でありました。

- 1 種行事を開催します。
創立四十周年記念式及び協会史の発刊等
日程 十一月十五日(火)
場所 横須賀平安閣
- 2 第九回親子スキー教室
日程 十二月二十四日(土)～二十八日(火)
場所 岩岳スキー場
人員 八十名

- 3 第三十八回市民スキーの会
日程 一月二十日(金)～二十四日(火)
場所 山形蔵王スキー場
人員 百二十名
- 4 第二十二回市民体育大会スキー競技会
日程 二月五日(日)～六日(月)
場所 岩岳スキー場
種目 大回転・回転
人員 八十名

致団結して執行に当たりますので皆様の絶大なご協力を重ねたいと思います。

厚木 スキー協会 10年を振り返って

私共の、協会が発足してもう十年目を向かえようとしています。

読者の皆様も、厚木が、十年目と聞いて、驚いた方も、いるかと思いますが、実際、私共も、同様感じているのです。

先日行われた、県総体で、長年の目標でありました、三位入賞も果たし、協会の、一つの節に、花を添える事が出来ました。これも、他協会の協力の賜物と、感謝致しております。最も、二つの協会さんには、あまり協力的ではなかった様ですが……)

昭和六十三年度実施事業等は、戦後創立四十周年を記念して、各地より、第五回冬季オリンピック札幌大会に向けて、代表選手を送り出すとスキー映画会や講習会などを開催し、第一回市民スキー競技会を、昭和十二年一月山中湖畔で実施するなど歴史がある協会でありました。

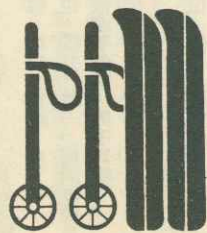
県連会員の皆さん今日は。藤沢スキー協会です。当協会は昭和三十四年十二月に発足し、以来三十二年を迎えようとしています。



市市民大会の方は、最近ですと、百名位の参加数となっています。横須賀スキークラブのメンバーの協

力、前走をやっていたら、各加盟クラブで、仕事分担し、運営しています。私共の協会では、自分達で、協会を慈しみ育てる事をモットーに、このよきな事業を行なってきました。

これから二十周年に、向かってスタートするにあたり、当面の課題は、若手幹部を育てる事と、協会を、さらに発展させる事です。そのために、皆様の御指導、御協力を、お願い致します。それでは、これで失礼します。



指導員会



4月の大雪と300人 第4回 指導員会フェスティバル

日時：昭和63年4月9、10日
場所：車山高原スキー場 参加 325名

二十年ぶり四月の大雪

「春うららかな残雪の高原で」となる四月の車山のはすが、一面粉雪の世界となる。この、四月の降雪は二十年ぶりともいわれ、例年どおりの雪不足で大会の開催が危ぶまれていたのが嘘の様な絶好のコンディションとなる。

前夜の吹雪もおさまり交通滞りから解放されどくどくと参加者が集まって来る。午後からの講習会は関口淳・森林之助講師により新スキー教程に盛り込まれた技術のデモンストレーションが新雪のゲレンデで繰り広げられる。

会場は混雑模様
三百名を越す参加で広いはずのスカイラザも混雑模様。恒例のパーティそして抽選会と前夜祭も四回目ともなると顔見知りも多くなり一段と盛り上がりつつある。

インスピレーション
まばゆい朝の陽光と白銀の反射光に目を細め、インスピレーションが始まる。シーズン中と変らぬコース長と雪質のせいかな真剣なまなざしでコースを読んでいる。

良きライバル達
スタートコール、良きライバル達がスタートに集まって来る。いつもの顔いつものスタート順いつもの笑い声が聞こえて来る。そしていつもの大会が始まる。これが指導員会フェスティバルなんだ。

大会入賞者

- 【少女の部】
一位 麻植 真里 雪稜 45秒06
- 二位 飯島 直子 雪稜
- 三位 丹羽 操 横浜スキー
- 【少年の部】
一位 池田 彰宏 ペガサス 41秒01
- 【女子の部】七組A
一位 齊藤 茂子 東京指導員会 44秒03
- 二位 丸山 禮子 川崎スキー
- 【女子の部】七組B
一位 土田美代子 平塚スキー
- 二位 高橋イキエ 日本指導員会 40秒86
- 三位 柳沢 和子 県庁スキー
- 【女子の部】六組
一位 廣松 佐禰 スポーツマン

二位 井戸ゆりえ スノーメイツ 43秒20

- 三位 前田 久代 横浜教職員
- 【女子の部】五組
一位 浅川 祥子 スノーメイツ 56秒31
- 二位 久保田隆子 茅ヶ崎スキー
- 【女子の部】四組
一位 中川 要子 横浜同好会 42秒41
- 二位 舟久保春美 スノーメイツ
- 三位 山岸あやこ スノーメイツ
- 【女子の部】三組
一位 荒川 祐子 相模原市役所 41秒43
- 二位 阿久津光代 大和同好会
- 三位 吉留 宏美 茅ヶ崎スキー
- 【女子の部】二組
一位 松村ゆり子 相模原市役所 39秒59
- 二位 古郡由貴子 横須賀雪友
- 三位 岡崎 恵子 川崎ユーベル
- 【女子の部】一組
一位 穴田 由香 湘南液化 36秒59
- 二位 渡辺 里美 横須賀雪友
- 三位 富永 美香 いすゞ藤沢
- 【男子の部】一一組
一位 松浦益司郎 神奈川雪友 38秒26
- 二位 土田 彌輔 川崎スキー
- 三位 鏡 孝作 鎌倉スキー
- 【男子の部】一〇組
一位 小林 俊輔 バイスバウム 43秒93
- 二位 大久保早苗 逗子スキー
- 三位 月岡 克巳 横浜同好会
- 【男子の部】九組
一位 関口 礼三 東京指導員会 37秒32
- 二位 荒井 哲夫 日本指導員会
- 三位 石田 久夫 茅ヶ崎スキー
- 【男子の部】八組
一位 齊藤 久 東京指導員会 38秒65
- 二位 嵐 要 大和同好会
- 三位 岩永 東男 ハマスキー
- 【男子の部】七組
一位 須田 恒男 横浜教職員 37秒87
- 二位 田村 由郎 スノーメイツ
- 三位 大澤 佑吉 川崎スキー
- 【男子の部】六組
一位 福沢 洋治 横浜同好会 37秒75
- 二位 草薙 純也 横須賀雪友
- 三位 廣松 樂山 スポーツマン
- 【男子の部】五組
一位 鎮目 隆夫 ファルケン 37秒14
- 二位 戸沢 真美 泰雪
- 三位 岩崎 悦征 ファルケン
- 【男子の部】四組
一位 池本 芳正 東京指導員会 35秒89
- 二位 三塚 洋二 相雪
- 三位 銭亀 英一 ユーベル
- 【男子の部】三組
一位 及川 城司 ペガサス

第7回オール神奈川スキーヤーズ大会

日時 昭和63年2月20・21日
会場 上越国際スキー場

一貫とした主張

「この大会は、神奈川県内のスキーヤーの皆さんにスキー競技の楽しさを知っていただくために企画されたものです」を旨に第一回から一貫とした主張の基に開催され、第六回から指導員会の主催に代ってもその精神を受け継ぎ開催されている。

若手指導員も集まれ

主催が代ることによる参加者の変化、特に競技選手層の参加に減少を懸念していたが、例年にも増して参加者の傾向にあった、むしろ指導員の参加が低調である。競技選手層の部は、県連公認のポイント対象大会である関係で県連の組分けに準じた三組となっており、指導員の部については、競技会に縁遠い指導員に多くの参加を願って五才刻み五組の組分けとなっているにもかかわらず、二〇才台の指導員および女性指導員の参加が少ないのは残念である。

スキー愛好者に浸透

往年の名選手、名アレーヤーの熾烈を聞いたとなったオールパワーの部。ポイントをかけた公認大会の熱い闘いとなった競技選手層の部。参加者の著しい、加熱した闘いとなった一般の部。

透し着実に多くの参加が見込まれる大会となった

- 大会入賞者
オールパワー【女子】
一位 廣松 佐禰 スポーツマン 1分41秒16
- 二位 福山 和江 古い帽子の会 1分41秒16
- 三位 前田 久代 横浜教職員
- オールパワー【男子四組】
一位 三塚正二郎 相雪 1分51秒63
- 二位 内田 鉄蔵 川崎スキー
- 三位 柳沢須佐男 ユーベル
- オールパワー【男子三組】
一位 石田 久夫 茅ヶ崎スキー 1分35秒93
- 二位 園田 和夫 横浜教職員
- オールパワー【男子二組】
一位 嵐 要 大和同好会 1分28秒14
- 二位 青木 規生 横浜教職員
- 三位 榎本 勝雄 茅ヶ崎スキー
- オールパワー【男子一組】
一位 丹羽 一夫 横浜スキー 1分25秒91
- 二位 須田 恒男 横浜教職員
- 三位 水島 秀夫 ユーベル
- 少年少女の部【男子】
一位 安原 紀幸 一般 1分41秒82
- 少年少女の部【女子】
一位 阿多美美代 一般 1分46秒25
- 一般の部【女子二組】
一位 佐々木政憲 川崎スキー 36秒65
- 二位 岸田 吉雄 日電横浜
- 【男子の部】二組
一位 佐藤 茂之 横浜教職員 37秒42
- 二位 麓 真志志 川崎スキー
- 三位 本田 俊章 横浜教職員
- 【男子の部】一組
一位 石谷 友一 川崎ユーベル 35秒15
- 二位 吉沢 信之 茅ヶ崎スキー
- 三位 三浦 繁 ペガサス

一位 舟久保みよ子 教職員 1分32秒61

- 二位 岡本美砂子 ファルケン
- 三位 比留川明美 いすゞ藤沢
- 一般の部【女子一組】
一位 松本 美佳 松下通信 1分29秒20
- 二位 佐藤 博美 横浜教職員
- 三位 古倉 孝子 いすゞ藤沢
- 指導員の部【女子二組】
一位 加藤紀美子 横浜教職員 1分31秒72
- 二位 山岸あや子 スノーメイツ
- 競技選手層の部【女子二組】
一位 大久保秀子 中原リーゼン 1分27秒60
- 二位 山射 康江 てんぐスキー
- 三位 伏屋 真澄 スポーツマン
- 競技選手層の部【女子一組】
一位 平尾 美樹 一般 1分23秒60
- 二位 岡田さとえ ユーベル
- 三位 長谷川紀子 IBM藤沢
- 指導員の部【男子五組】
一位 福沢 洋治 横浜同好会 1分23秒04
- 二位 山本 稔 てんぐスキー
- 三位 佐藤 良治 スポーツマン
- 指導員の部【男子四組】
一位 武田 秀男 フジタ工業 1分17秒10
- 二位 万木 克美 一般
- 三位 西内 正博 横浜同好会

指導員検定のための特別研究会

日時 昭和六三年一月三〇日 三十一日
場所 車山高原スキー場
指導員会の新企画事業である、当研究会は、指導員検定を受ける会員の多くの方が合格することを目指して実施された。

研究会は、山田隆氏(SAJ専門委員)をはじめ根本孝夫・銭亀英一(SAJプロック技術員)講師による検定員目から見たポイントなどを重点的にテキスト・ポイントなどを重点的にテキスト・セッション技術力の向上をはかるミーティングは、ビデオにより講師のアドバイスと自己チェックの実施模範検定による点数評価のデータで不足部分への対策など、検定当日むけて指針となるようにと短期ではあるものの熱のこもった研究会となった。

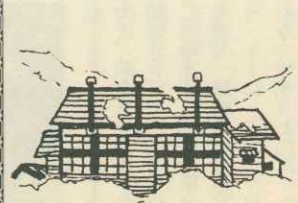
ゴルフ

第37回指導員会ゴルフコンペ
日時 昭和六三年六月二日
場所 富士高原ゴルフコース 籠坂コース

早朝から梅雨の雨がふる中、スキー仲間六十名が続々と集まって来る。ここは、御殿場の籠坂の富士高原ゴルフコース、恒例の親睦ゴルフコンペである。

開会式が始まる頃、雨はピタリと止みブレークが始まる。皆の見つめる中ティーショットが放たれる「ナイスショット」拍手に送られ次々とスタートしていく。

- 優 勝 石黒 和人 野辺山
- 二位 三浦 秀也 鎌倉
- 三位 佐々木 峻 横浜
- ベスグロ 佐々木 峻 81



ニアピン 和田 荘一 戸隠

- 廣瀬 稔 横浜
 - 石渡 善司 藤沢
 - 片岡 春夫 川崎
 - 清水 清則 横浜
 - 高谷 裕 川崎
 - 久保 啓一 ミズノ
 - 廣瀬 稔 横浜
 - 佐々木 峻 横浜
- なお、前回優勝の中村孝(川崎)氏二位小林隆二(相模原)氏はハンを減らされ後退、三位松浦益司郎(小田原)氏着実なゴルフで上位にランク。

事務局からの連絡

指導員会に加入し、夏の親睦会(今年八月二一日を予定)および総会等の案内が届かない方、住居表示の変更、転居先の変更等をご連絡下さい。
中野善次郎 Tel(0468)25-8675